

CKJSだより

第47号

校長 松平 昭二

shoji_matsudaira@hotmail.co.jp

郷愁の東京オリンピック

2021年、コロナ禍の中で2回目の東京オリンピックが行われました。観戦者なしでの寂しい開催でした。私にとっては、1964年10月に開催された最初の東京オリンピックの印象が強いです。当時、私は富山県に住んでおり小学3年生でした。テレビや新聞を通してですが、記憶はなお鮮烈です。テーマソングは「東京五輪音頭」でした。8年後の札幌冬季オリンピックの「虹と雪のバラード」に比べれば、その曲調はまことに大きな隔たりがあります。でも、私にとっては「音頭」こそが五輪のテーマソングです。前年の運動会では、校庭いっぱい広がってこれを踊りました。🎵 オリンピックの顔と顔 ソレトントトトント 顔と顔・・・🎵 懐かしいです。

学校では大会の間、教室にテレビが置かれました。テレビのない家がまだあった頃です。家に帰って見るよりも友達と見た方が楽しくて、放課後も学校でよく見ました。マラソンの最後のデッドヒートで、円谷選手が英国のヒートリー選手に抜かれるシーンは今でもはっきり覚えています。大正生まれの女性担任教師が「キャーッ！」と絶叫していたの思い出します。皆で「円谷頑張れ、円谷頑張れ！」と手をたたきながら大声で応援しました。

東京から遠い富山でも、オリンピックに合わせて美化運動などが唱えられ、質素な学校も心なしか華やいだ空気になりました。大会後、中学校では従来の日曜日の運動会に加えて、平日に「記録会」のようなものが開かれました。私が中学生になったときもありました。もちろん、仮装行列やムカデ競走はありません。父母の応援もゴザ(ムシロ)に広げる弁当ありません。ミニ五輪のように、生徒たちを走らせ、跳ばせ、距離やタイムをはかるのです。これもオリンピック熱の産物でしょうか。今はどうなっているのでしょうか？

往時を語れば、ノスタルジーに浸る年寄りと思われるかもしれませんが、私はあの一体感、高揚感が忘れられません。今、そういった再現は難しいでしょうし、時代遅れなのかもしれません。

来週は運動会です。コロナ禍によって3年間中止になっていた行事ですので、子どもたちは大変楽しみにしています。単なるイベントに終わらず、子どもたちが「何か」に心動き、感じとってくれるものがあれば願っています。ご来校をお待ちしています。



令和5年5月13日

保護者様

セントラルケンタッキー日本人補習校
校長 松平 昭二

第1回 家庭教育学級のご案内

3月の保護者会でお話しした「家庭教育学級」(仮称)を下記のとおり実施します。今回は、校長が講師となりお話しします。出席される予定の方は、下記用紙にご記入の上、担任までご提出ください。

- 1 日時 (1) 小学部 1~3年 令和5年9月9日(土) 13時45分から
(2) 小学部 4~6年 令和5年9月16日(土) 13時45分から
(3) 中・高等部 令和5年9月23日(土) 13時45分から

- 2 テーマ(仮称) (テーマは変更することがあります)
(1) 子どものやる気を引き出すためには
(2) 日本とアメリカの教育の違いから子育てを考える
(3) 思春期の子どもと親のかかわり方

- 3 場所 図書室(予定)

..... キリトリ

令和5年9月 日(土)の家庭教育学級に

参加 (どちらかに○印をつけてください)

不参加

小・中・高等 学部 _____ 年 児童生徒名 _____

保護者 氏名 _____

<自由意見欄 >